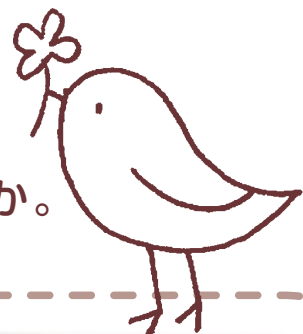


こころとことばを育てる絵本の世界を子どもたちと

親子の読書活動ガイド

本を通して、
家族のふれあいを深めてみませんか。



ぴたっ!



あずみ虫 作・絵
福音館書店

いろんな動物の親子が「ぴたっ!」と身をよせあう姿が、だっこしたり、なでたりしてもらい喜びを、いっそう大きくしてくれます。

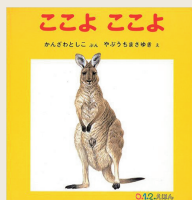
ちょっと前までおなかの中にいた赤ちゃんは、人の体温や鼓動にふれていないとおちつきません。守られている安心感のなかで、目と目を合わせ、笑顔をかわす経験を重ねることで、信頼の土台ができて、離れていても大丈夫になってきます。

最初は、じっと見ていますが、だんだんと絵本の絵をつまんでみたり、お気に入りのフレーズをまねするようになります。

目を見ながら、
やさしく
話しかけるように



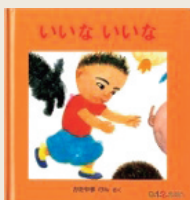
こんな本はいかが?



「ここよ ここよ」
神沢利子 文
数内正幸 絵
福音館書店



「くだもの」
平山和子 作
福音館書店



「いいな いいな」
片山健 作
福音館書店

Q & A

Q: まだ赤ちゃんには、絵本は早いのではないですか?

A: 赤ちゃんがまだしゃべれなくても、「気持ち」のキャッチボールを楽しむのは、大切なこと。それには、身近な自然や絵本がいい材料になります。

おやすみクマタくん



カズコ・G・ストーン 作
福音館書店

もう眠いのにも、まだ寝ないとがんばるクマタくん。ひとしきり自己主張して満足したクマタくんは、美しい夜空の下で、すやすやと眠りにつきます。

あんなに甘えていたのに、「イヤだ」とがんばりはじめるのは、「自分」というものをつかみはじめた証拠。大人とのやりとりを通して、ときに思いを通したり、ときに曲げたりしながら、心の中で折り合いをつけるトレーニングをしているのです。

絵本の世界をいきいきと感じとっていきます。目で見たものから肌触りや匂い、味覚さえも鮮明に受けとる感性が発揮されます。

絵本を通した
やりとりも
楽しみましょう



こんな本はいかが?



「ぼくのくれよん」
長新太 作・絵
講談社



「おさんぽ おさんぽ」
ひろのたかこ 作
福音館書店



「まるくておいしいよ」
小西英子 作
福音館書店

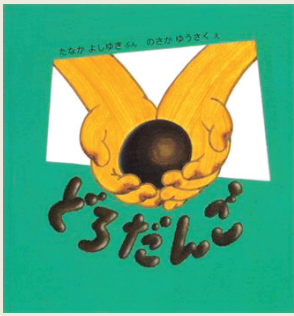
Q & A

Q: 同じ本ばかり読みたがるのですが、いいのですか?

A: 心地よい言葉の響きや、心配が喜びに変わるうれしさなどは、何度でも体験したいもの。大人だって、大好きな音楽は何度でも聴きたいですよ。

遊び充実期

どろだんご



たなかよしゆき 文
のさかゆうさく 絵
福音館書店

手だけをアップにした絵と、「おだんご ごろごろ ぎゅっ ぎゅっ にぎろ」など、心をはずませる言葉で、どろだんご作りのコツを楽しく伝授してくれます。

よく遊ぶお友だちの名前を覚え、その子と遊ぶのがうれしくてたまらない様子の毎日。服を汚して帰ってくるのも、あたりまえ。大人のおおらかなまなざしの中でこそ、子どもは遊びを充実させ、人と関わる力や生きる術を学んでいきます。

絵本で見たことを試してみたくなったり、遊んでいるからこそ、絵本のお話が楽しめたりと、絵本と遊びがつながっています。

絵本の時間を
ゆったりと
もつことが大切



世界を広げる期

番ネズミのヤカちゃん



リチャード・ウィルバー 作
大社玲子 絵
松岡享子 訳
福音館書店

どうしても大声がなおらなくて、お母さんを心配させていたねずみの子が、その声を生かして人間の役に立ち、番犬ならぬ番ねずみとして認められるという痛快なお話です。

まわりの世界に関心が広がると同時に、自分の中に沸き起こる感情へのとまどいも増えていきます。知識を得るだけではなく、つらさの先に喜びが待っているような体験を重ねながら、子どもの心はゆっくりと育っていきます。

「今、ここ」にない世界を想像しながら、お話の世界を楽しめるようになってきます。とんち話も、なるほどと納得できるようにもなります。

お話の世界を
親子で一緒に
味わいましょう



こんな本はいかが？



『ダンゴムのコロリンくん』
カズコ・G・ストーン 文・絵
岩波書店



『たんぽぽ』
甲斐信枝 作・絵
金の星社



『およく』
なかのひろたか 作
福音館書店

こんな本はいかが？



『ピーターのがみ』
エズラ・ジャック・キーツ 作・絵
木島始 訳
偕成社



『ずいとんさん』
日野十成 再話
斎藤隆夫 絵
福音館書店



『王さまと九人のきょうだい』
君島久子 訳
赤羽末吉 絵
岩波書店

Q & A

Q: 私自身、読み方に自信がありません。

A: 子どもといっしょに隅々まで絵を楽しみながら、ゆっくり読んであげましょう。子どもには身近な大人の声は何より。大きな声色などは無用です。

Q & A

Q: 字が読めるようになったので、読み聞かせをしなくてもいいのですか？

A: 文字を読むことが大変なうちは、自分で読もうとすると想像力が働かなくなりがち。「もう自分で読む」と言いたすまで、読み聞かせてあげましょう。



図書館に出かけてみませんか？



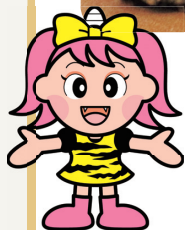
図書館には本のプロがいます。
図書館で素敵な本を見つけませんか？一緒に本の世界を楽しみましょう。いつでも声をかけてくださいね！



おはなし会に参加してみよう!!



ヨムヨム赤ちゃんおはなし会【県立図書館】



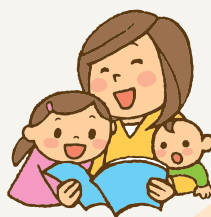
親子で楽しくわらべ歌などの
ふれあい遊びもできるよ。

図書館では、児童を対象としたおはなし会に加えて、
乳幼児とその保護者を対象にしたおはなし会を開催しています。

くわしくは、地域の図書館に尋ねてください。



図書館のないところには、
移動図書館が出かけていくよ。



岡山県「ぼっちり!モグモグ」
生活リズム向上マスコットキャラクター

公民館や子育て支援施設などでも
本と出会うことができるよ。

お問い合わせは、こちらへ

岡山県教育庁生涯学習課
〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6
Tel : 086-226-7596 (直通)
Fax : 086-224-2035

おかやま どんどん読書

検索

